

〔居間・事務所・店舗用〕

三菱ダクト用換気扇 (24時間換気機能付 DC ブラシレスモーター搭載/定風量タイプ)

グリルタイプ	インテリア格子タイプ (-Cタイプ)	スリットインテリアタイプ (-Xタイプ)	フラットインテリアタイプ (-FPタイプ)
形名	VD-15ZVX6-C	VD-15ZVX6-X	VD-15ZVX6-FP VD-15ZVE6-FP

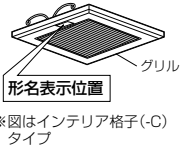
据付説明書

販売店・工事店様用

据付けを始める前にこの説明書と別冊の「据付説明書(電気工事)」をよくお読みになり、正しく安全に据付けてください。

別冊の「取扱説明書」はお客様用です。必ずお渡しください。

- 据付け、壁穴工事はお買上げの販売店・工事店様が実施してください。
- 電気工事は電気工事士の方が実施してください。
- この製品は、居間・事務所・店舗の天井に据付けてください。それ以外の用途には使用しないでください。故障の原因となります。
- 形名によって据付方法が異なりますので、据付け前に形名をご確認ください。
- この製品には市販の埋込スイッチ、またはシステム部材のコントロールスイッチが必要です。その他屋外フードなどは三菱換気送風機総合カタログをご確認の上、別途ご用意ください。
- 電子式スイッチ(半導体制御による速調・温度・湿度・タイマースイッチなど)やホタルスイッチをご使用の場合は組合せ上、不具合の発生するおそれがありますので、ご使用の際はあらかじめご確認ください。
- 接続ダクトは外形寸法図に示すダクト径の塩化ビニル管・アルミフレキシブルダクト・銅板管のいずれかをご用意ください。



1. 安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

	警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの		注意 誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの
--	--	--	--

本文中や本体に使われている図記号の意味は次のとおりです。

	禁止		水ぬれ禁止		分解禁止
	浴室での使用禁止		感電注意		指示に従う

		警告	
	●ガス漏れに気付いたときは、換気扇のスイッチの入・切をしない 爆発・引火の原因。		●電気工事の際、裸線に接触しない 感電の原因。
	●製品に直接水やお湯、かび取り剤などをかけない ショート・感電の原因。		●交流100Vを使用する 直流や交流100V以外を使用すると感電の原因。
	●改造や工具を必要とする分解はしない 火災・感電・けがの原因。 分解・修理は修理技術者のいる販売店または当社のお客さま相談窓口にご相談ください。		●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう据付ける 漏電した場合発火の原因。

		注意	
	●直接炎のあたるおそれのある場所や油煙・有機溶剤・可燃性ガスのある場所には据付けない 火災の原因。		●据付けの際は必ず手袋を着用する けがの原因。
	●台所・厨房・飲食店など、熱気や油煙が発生する場所には据付けない 本体・部品の落下によるけがの原因。		●本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に行う 落下によりけがの原因。
	●中性洗剤以外の洗剤・殺菌剤・消毒剤を頻繁に使用する場所には据付けない 本体・部品の落下によるけがの原因。		●部品の据付けは確実に行う 落下によりけがの原因。
	●浴室など湿気の多い場所には据付けない 感電・故障の原因。		●電気工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う 接続不良や誤った電気工事は感電・火災の原因。

2. 据付け前のお願い

注意

- 台所・厨房・飲食店など、熱気や油煙が発生する場所には据付けない
本体・部品の落下によるけがの原因。
- 中性洗剤以外の洗剤・殺菌剤・消毒剤を頻繁に使用する場所には据付けない
本体・部品の落下によるけがの原因。

据付けにあたって

- ダクト用システム部材の使用については、地区により異なった規制を受ける場合がありますので、あらかじめ所轄の官公庁(特に消防署)にご相談ください。
- 高温(40℃以上)になるところには据付けないでください。早期故障の原因となります。
- 効果的な換気を行うために給気口を設けてください。
- 傾斜天井には据付けないでください。シャッター開閉不良、振動、異常音の原因となります。
- 製品上部を断熱材などで覆わないでください。早期故障の原因となります。

据付位置

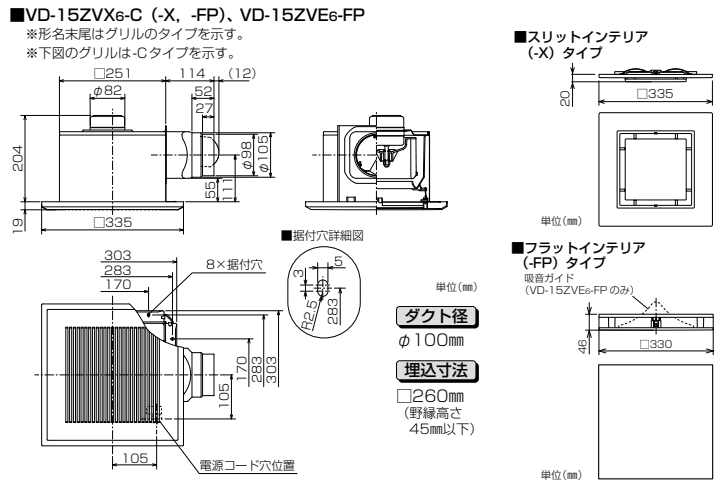
- グリルを取りはずしやすくするためグリル側面と部屋の壁面が150mm以上離れる位置に製品を据付けてください。

天井・ダクト工事

- 天井材は、振動・共鳴音防止のため強度のあるものをご使用ください。
- 排気ダクトは雨水の浸入やドレン水の逆流を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下り勾配をつけてください。
- 次のようなダクト工事はしないでください。風量低下や異常音発生の原因となります。
 - 極端な曲げ
 - 多数の曲げ
 - ダクト接続口のすぐそばでの曲げ
 - しぼり
- 天吊金具を使用する場合、製品の着脱には天井裏での作業が必要です。天井裏での作業ができるよう製品の近くに点検口を設けてください。点検口がない場合、製品取替えなどで天井などを壊す費用は、お客様のご負担となります。
- 定風量機能を有効にするためには、ダクト長さやフードの選定を適切に行う必要があります。詳しくは納入仕様書をご覧ください。

3. 外形寸法図

【付属部品】木ネジ…6本



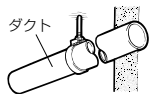
4. 据付方法

※天吊金具を使用される場合は“天吊金具を使用する場合”をご覧ください。

1. ダクト工事

壁排気穴から本体のダクト接続口までダクト配管する。

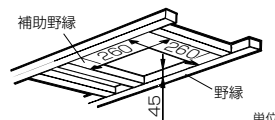
- ダクトはダクト接続口にかが加わらないよう天井より吊る。(力が加わるとシャッター開閉不良、風漏れの原因となります)
- ダクトに結露が発生する場所においては、ダクトに断熱処理を施してください。(結露により天井材を汚損する原因となります)



2. 野縁組立

図のように天井の野縁と補助野縁で据付枠を組む。

(野縁高さを45mm以上で据付けると、シャッター開閉不良、異常音の原因となります)



お願い

- 天井がたわまないように、十分強度のある野縁に据付けてください。
- 野縁を組立てる際は、据付穴のピッチと据付穴の詳細図をご確認ください。野縁内寸法が大きいと、木ネジが垂直に打てなくなり、野縁の割れによる固定不具合が発生します。

4. 据付方法 つづき

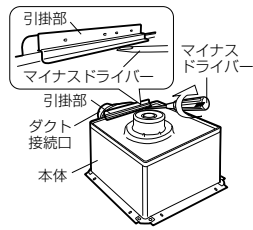
3 ダクト接続

ダクト接続口の取りはし

●図のように本体と引掛部のすき間にマイナスドライバーを差し込み、回してダクト接続口をはずす。

お願い

●ダクト接続口は無理に引き抜かないでください。



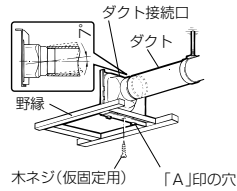
ダクト接続口の固定

●ダクト接続口をダクトに差し込み、野縁の角の直角に合わせ、すき間がないよう付属の木ネジ1本で仮固定する。(「A」印の穴を使用)

●塩化ビニル管と接続する場合、ダクト方向の微調整が可能です。(全方向7°)

お願い

●ダクト接続口に無理な力が加わらないよう注意してください。
(無理な力が加わるとシャッター開閉不良や風漏れの原因となります)



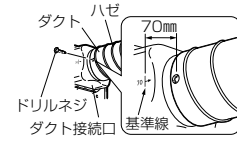
ネジでダクトを接続する場合

ネジによる接続

(1) 図のように矢印から水平に70mmの位置に市販のドリルネジで固定する。スパイラルダクトでハゼ部が上記70mmの位置にくる場合は、矢印から水平に60mmの位置に固定する。

●ドリルネジの長さはダクトの種類に合わせ、右表を参照してください。シャッター開閉や固定不良の原因となります。

(2) 風漏れの少ないよう市販のアルミテープなどでネジの頭をテーピングする。

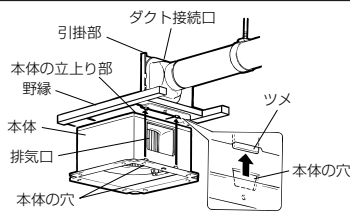


ダクト呼び径 φ100の場合			
ダクト外径(mm)	100~105 (スパイラルなど)	106~110	114 (VDF管など)
ネジ 呼び径φ	10	13	16

4 本体の据付け

本体の差し込み

●本体の穴とダクト接続口の内側のツメおよび本体の立上り部とダクト接続口の引掛部がはまりこむように本体とダクト接続口を接続する。



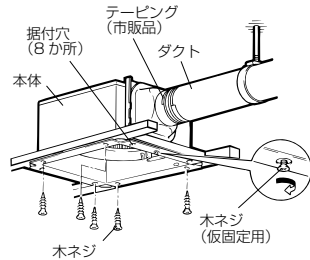
本体の固定

(1) 本体がダクト接続口に密着していることを確認してから、付属の木ネジ5本で本体をすき間のないようにしっかりと固定する。(すき間があると風漏れの原因となります)

●天吊金具を使用する場合は、付属の木ネジ4本で向かい合う2辺の据付穴を使用し、固定してください。

(2) ダクト接続口を仮固定している木ネジ1本を締め付ける。

(3) 風漏れの少ないよう市販のアルミテープなどでダクト接続部をテーピングする。



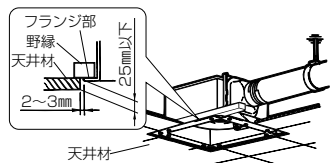
お願い

●羽根を持って本体の据付けを行わないでください。
(本体に羽根があたり、異常音の発生や羽根破損の原因となります)

●ダクト接続をネジで行う場合はネジでダクトを接続する場合を参照してください。

別冊の「据付説明書 5 電気工事」へ つづく

6 天井材を張る

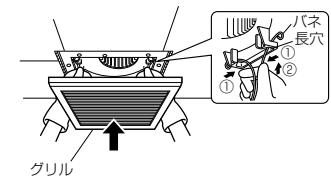


(1) 天井材を張る。
(2) 本体のフランジ部分と天井材は必ず2~3mmのすき間があくよう角穴をあける。

お願い

●天井材の厚さは25mm以下で据付けてください。
(グリルが天井材に密着しない場合があります)

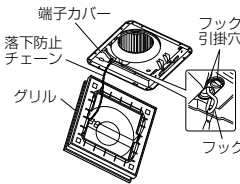
7 グリルの据付け



(1) グリルのパネを指先で縮め長穴に差し込む。パネは本体側へ片側ずつ差し込むとスムーズに据付けられます。

(2) 手を放し軽くグリルを押し上げ天井材に密着させる。

■VD-15ZVE6-FPの場合



パネを長穴に差し込む前に、落下防止チェーンのフックを端子カバー近くのフック引掛穴に引掛ける。

グリルの調整

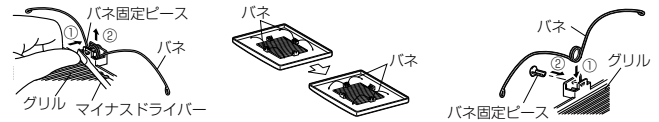
インテリア格子グリル(-Cタイプ)の方向を変更する場合

…天井材に合わせてグリルの方向を変更できます。

(1) マイナスドライバーの先端でパネ固定ピースを矢印①の方向に押し、グリルから抜き取りパネをはずす。

(2) パネの位置を90°変更して据付け、パネをパネ固定ピースで固定する。

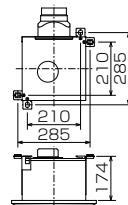
●パネ固定ピースは「パチン」と音がするまで挿入して、抜けないことを確認してください。



天吊金具を使用する場合

野縁に強度がない場合は天吊金具を使用して据付ける方法も併用してください。

下図の位置にあらかじめ市販の吊りボルト(M8またはM10)を埋め込む。

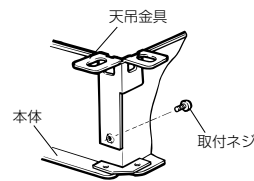


天吊金具P-05TKタイプ
(別売システム部材)
据付位置(2点吊り)

お願い

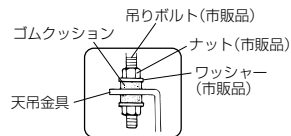
●本体付近に必ず点検口を設けてください。
本体着脱の際、天井をはがさないと据付けられない場合があります。

2



天吊金具(別売システム部材:P-05TKタイプ)のツメを本体に引っ掛けて、内側から取付ネジで固定する。

3



本体が水平になるように天吊金具を吊りボルトに据付け、ナットがゆるまないようワッシャー・ナットにて確実に固定する。

お願い

●下側のナットには緩み防止機能付ナットの使用や接着剤・緩み防止剤などにより緩み止めを施してください。

5. 試運転およびお客様への説明

●コントロールスイッチがある場合は、切/入、急速/強/弱切り替えが正しくできるか確認してください。

●異常な音や振動がないか確認してください。

●電源投入後、羽根が回転を始めるまでに2秒程度かかります。

※運転が安定するまでに数十秒かかります。

●定風量換気運転中(「強」または「弱」運転中)は運転音に変化がありますが、これは換気風量を適正に確保するための自動制御によるものであり異常ではありません。

お客様への説明 別冊の取扱説明書に従って、正しい使い方をお客様、発注者(オーナー、ゼネコン)または管理者に説明してください。

6. 修理を依頼する前に

■試運転時に、次のような症状があれば点検してください。

こんなとき	原因	点検・処置
電源スイッチを入れても羽根が回転しない 急速/強/弱のどれかが動かない	分電盤のブレーカーが「切」になっている 正しく結線されていない	ブレーカーを「入」にする 結線を確認する(スイッチ部/電源線接続部) ※換気扇にAC100Vが供給されていることを確認する ※別冊の「据付説明書 5 電気工事」の結線図、電圧チェック表を確認する 特に弱、急速運転をご使用される場合は結線間違いにご注意ください。
運転中に異常な音や振動がする	本体・グリルが確実に据付けられていない 羽根・グリルに異物が付着している 本体の固定(天吊金具・ネジ止め)が弱い 換気風路の抵抗が大きい(ガラリ・アンダーカット) 換気風路の抵抗が大きい(ダクト配管) 換気風路の抵抗が大きい(屋外フード)	正しく据付け直す 異物を取り除く 本体の固定を確認する ガラリ・アンダーカットを開けて給気する ダクトのつづれ、急な曲がりを修正する 屋外フードのほこりを清掃する(特にリフォーム時)

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

(居間・事務所・店舗用)

三菱ダクト用換気扇 (24時間換気機能付 DC ブラシレスモーター搭載/定風量タイプ)

グリルタイプ	インテリア格子タイプ (Cタイプ)	スリットインテリアタイプ (Xタイプ)	フラットインテリアタイプ (FPタイプ)
形名	VD-15ZVX6-C	VD-15ZVX6-X	VD-15ZVX6-FP VD-15ZVE6-FP

据付説明書

販売店・工事店様用

4. 据付方法 4 本体の据付け つづき

5 電気工事

電線同士の接続や接地工事を行う場合は電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令 (および同解説)」および「内線規程」に従い実施してください。

■結線図 (太線部分を結線する)

お願い

- 結線間違いや異電圧印加などの誤結線を行いますとモーターや制御回路が故障します。誤結線によるモーターや制御回路故障の場合、サービス費用 (交換部品代含む) はお客様の負担となりますので結線図を十分ご確認の上、結線してください。
- 結線図の (●) 部分の接続部は市販のジョイントボックスに収めてください。

DCタイプ専用コントロールスイッチ (P-20SWV₂、P-04SWLV₂) を使用する場合

風量3設定切替え仕様

急速-強-弱

● 適用コントロールスイッチ

風量切替	コントロールスイッチ	
3設定切替え	P-20SWV ₂	15A-AC300V
2設定切替え	P-04SWLV ₂	15A-AC300V

風量2設定切替え仕様

強-弱 急速-弱 急速-強

その他のコントロールスイッチを使用する場合

風量3設定切替え仕様 (1) 急速-強-弱

● 適用コントロールスイッチ

風量切替	形名	定格
3設定切替え (1) 急速-強-弱	市販品	4A-AC300V
2設定切替え (2) 強-弱	P-04SWLB ₅	0.5A-AC300V
(3) 急速-弱	P-04SWLV ₂	4A-AC300V
(4) 急速-強		
単一設定 (5) 弱	P-11SWLV ₂	0.5A-AC300V
(6) 強		
(7) 急速	P-10SW ₂	4A-AC300V

● コントロールスイッチ (ランプ付) の仕様により、「急速」「強」「弱」切替えでランプの点灯が薄くなった、ちらついたりすることがありますが異常ではありません。

風量2設定切替え仕様

(2) 強-弱 (3) 急速-弱 (4) 急速-強

単一風量設定仕様

(5) 弱 (6) 強 (7) 急速

■複数台運転について

お願い

- コントロールスイッチ1個で換気扇を複数台運転させる場合、下記の指定台数を超えないでください。換気扇の突入電流によりコントロールスイッチが故障する原因となります。

DCタイプ専用コントロールスイッチ (P-20SWV₂、P-04SWLV₂) を使用する場合

- コントロールスイッチ1個で運転できるDCブラシレスモーター搭載ダクト用換気扇の台数は3台までです。VD-15タイプのみ組み合わせの場合には4台まで運転できます。

その他のコントロールスイッチを使用する場合

■コントロールスイッチ (ランプ付き) の使用について

- 定格4A-AC300V仕様のコントロールスイッチ1個で運転できるDCブラシレスモーター搭載ダクト用換気扇の台数は3台までです。

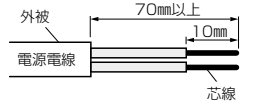
■コントロールスイッチ (ランプ無し) の使用について

- 定格15A-AC300V仕様のコントロールスイッチ1個で運転できるDCブラシレスモーター搭載ダクト用換気扇の台数は3台までです。VD-15タイプのみ組み合わせの場合には4台まで運転できます。

■結線の前に

お願い

- 市販のコントロールスイッチで24時間換気運転する場合は、スイッチを容易に停止されない工夫が必要です。
- 電源電線の外被は70mm以上皮むきしてください。
- 電線被ふきは10mm皮むきしてください。端子カバーに刻印されている皮むき寸法図に合わせて皮むきすると便利です。(10mm以上むくと漏電の原因となります)
- より線を結線する場合は、棒状圧着端子 (市販品) をより線に取付けてから連結端子に確実に差し込んでください。(導電部10mm未満の場合、結線部外れの原因となります)
- 電源電線は、接続部に力が加わらないよう本体付近で約150mmたませて、本体上部のモーターに接触しないようにしてください。
- アース工事の際は、単線φ1.6またはより線1.25mm²をご使用ください。(圧着工具は日本圧着端子製YHT-2210をご使用ください)



● 電圧チェック表

- 線間電圧が右記の電圧であることを確認してください。



警告

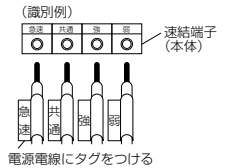
- 電気工事の際、裸線に接触しない感電の原因。

スイッチ		測定部			運転状態
電源	急速	24時間換気	共通-急速 (強-急速)	共通-強	共通-弱 (強-弱)
切	入	入	0	0	0
入	入	強	100	100	0
入	入	弱	100	100	100
入	切	強	0	100	0
入	切	弱	0	100	100

※ その他のコントロールスイッチを使用する場合は () の測定部に確認してください。

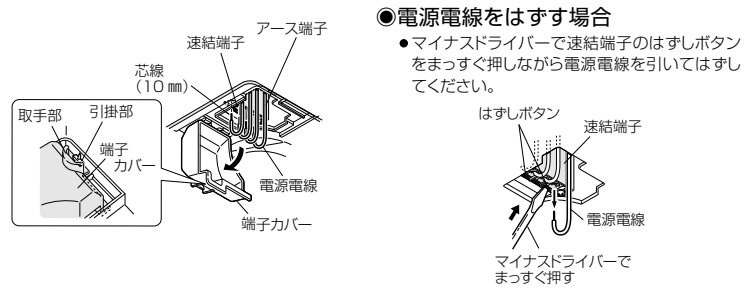
● 電気配線の識別

- 電気結線を間違えるとモーターや制御回路が故障します。
- 正しく結線するために、電気工事の際、各電源電線を識別できるようにしてください。



■結線方法

1. 本体上部のゴムブッシュより電源電線 (屋内配線 VVFケーブルφ1.6またはφ2) を通す。
2. 端子カバーの取手部に指を掛け、下に引いて端子カバーを開け、連結端子に皮むきした芯線を確実に奥まで差し込む。(下図参照)
3. 端子カバーを元どおり取付ける。「パチン」と音がするまで押し込み、端子カバーが引掛部に確実に固定されていることを確認する。



● 電源電線ははずす場合

- マイナスドライバーで連結端子のはずしボタンをまっすぐ押しながら電源電線を引いてはずしてください。

別冊の「据付説明書 6 天井材を張る」へ つづく